



見応えのある大きな花と丈夫さが人気!

ニチニチソウ 「サンダー®」

作型図	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
寒地 / 寒冷地					●	●	●	●	●	●		
温暖地				●	●	●	●	●	●	●		
暖地			●	●	●	●	●	●	●	●		

● まきどき ● 開花期

※栽培方法・時期は目安です。適温でのタネまき、地域や条件に合わせた栽培をおすすめします。

おすすめアイテム

＼ タネ ／ ＼ タネまき資材 ／ ＼ 肥料 ／ ＼ 定植用培養土 ／



ニチニチソウ
サンダー®ミックス



スーパーミックスA®
(タネまき・育苗用土)



ネイチャーエイド
有機の液肥



花三昧®

基礎情報

分類	キョウチクトウ科
用途	地植え / 鉢植え
日当たり	日なた
耐暑性	強
耐寒性	弱

タネをまく前に 毎回確認! タネまき基本3チェック

☑ 気温をチェック

気温が高過ぎても低過ぎてもうまく発芽できません。天気予報などで気温を確認してからタネをまきましょう。特に春は日中暖かくても夜は冷えるので注意してください。

☑ 土の厚さをチェック

発芽するときに光を好むもの、嫌うもの、どちらでもいいものがあります。必ずチェックしてからまきましょう。

☑ 土が乾燥していないかチェック

タネまき後、発芽まではこまめに水やりしてください。発芽するまで乾燥は厳禁。ジョウロでの水やりでタネが流されそうな場合は霧吹きを使ってください。

手順

1 タネまき



ポリ鉢に深さ5mm程度の穴を開けます。



タネ2~3粒をまきます。ニチニチソウのタネは細かいので落とさないように注意します。



タネが隠れるように5mm程度土をかぶせ、たっぷり水やりをします。

ニチニチソウの発芽には温度が重要です。発芽適温は20~25℃前後と高いので、十分気温が上がってからまくようにしましょう。温度が低いときは発芽温度の確保が重要なため、夜はビニールトンネルを掛けるようにします。直径9cmのポリ鉢にタネ2~3粒ずつまき、発芽まで土を乾かさないように管理します。発芽まで10日程度かかります。

土はタネまきと小さな苗の栽培に適した「**スーパーミックスA**」がおすすめです。

手順

2 発芽

発芽したら十分日光に当てるようにします。気温が高い時期に光不足だと苗が徒長しやすいので注意が必要です。



ニチニチソウは発芽まで時間がかかるので気長に待ちます(10日程度)。

手順

3 間引き



本葉が2~3枚になったら1本に間引きします。



元気そうな苗だけを残して1本にします。



「ネイチャーエイド 有機の液肥」をジョウロで施肥します。



本葉が2~3枚になったらハサミを使って1本に間引きします。その後、週に1度、効き目の早い液肥「**ネイチャーエイド 有機の液肥**」の500倍液をジョウロで与えるようにします。

手順

4 摘芯

摘芯は茎の先端部分を摘み、植物の成長を止めたり、あるいは枝葉を増やすために行います。本葉6~8枚の若苗のとき、茎の上部を切るとわき芽がよく出て、姿よく咲かせることができます。



わき芽が出てしっかりした苗に。花の数も増えます。

約2週間後



本葉6~8枚のときに茎の上部をハサミで切り取ります。

手順

5 定植

ポリ鉢の底まで根が回ったら、植え付けの適期です。根を傷つけないように植え付けます。定植は日のよく当たる、水はけのよい場所が適地です。プランターに植えるときは、初期肥料配合済みでそのまま使える培養土「**花三昧**」がおすすめです。過湿を嫌うので、土の表面が乾いてきたら、たっぷり水を与えるようにします。開花期の長い花なので、肥料切れしないように植物の様子を見ながら肥料を施しましょう。

